



国際報道写真協会制作《日本観光写真壁画》『フォトタイムス』1937年4月号口絵)

第16回富士山世界遺産セミナー

世界遺産としての 京都と富士山を再考する

日時

令和7年 11月9日 日

12:50~15:50 (受付開始 12:20)

定員

100名 (事前申込制・先着順)

受講料

無料

講演1 「京都イメージと富士山と国民文化」

講師：高木博志 (京都大学名誉教授)

講演2 「江戸期における外国人の京都・富士山の感想」

講師：タイモン・スクリーチ (国際日本文化研究センター教授)

講演3 「富士山の政治史—徳川日本から帝国日本へ—」

松島仁 (静岡県富士山世界遺産センター教授)

講演者によるパネルディスカッション

「世界遺産—京都と富士山を再考する」

コーディネーター 植田彩芳子 (立命館大学教授)

申込期間

令和7年9月17日(水)から令和7年11月2日(日)まで

申込方法

静岡県富士山世界遺産センターホームページのトップページにある「トピックス」内の本セミナーのご案内ページからお申込みください。 (<https://mtfuji-whc.jp/>)

*電話(0544-21-3776)でのお問合せは9:00~17:00にお願いいたします。(10月21日は休館日のため電話対応ができません。)

会場 京都教育文化センター 103会議室

京都府京都市左京区聖護院川原町4-13

アクセス：京阪本線神宮丸太町駅⑤出入口より徒歩5分

※駐車スペースはありませんので、公共交通機関にてお越しください。



第16回富士山世界遺産セミナー

世界遺産としての 京都と富士山を再考する

平成5年（1993）に法隆寺と姫路城がはじめて世界遺産に登録されてこのかた、日本における世界遺産は文化遺産と自然遺産を合わせ26もの多きを数えます。このなかで京都と富士山は“日本を代表する”世界遺産として認識され、国内外から多くの観光客を集めています。

しかしながら現在私たちが疑うことなく賞賛する京都と富士山—それらは、遠い過去より無謬性や不可侵性をまとった存在だったのでしょくか？ 現在私たちが両者に抱くイメージは不変であり続けたのでしょくか？

本セミナーでは京都と富士山が文化史的に卓越した地位を獲得し、さらには共同体としての日本を表象するイメージとして国際的に定位されていく過程を検証することにより、文化における規範性の問題、さらには現代社会における世界遺産の政治性を再考する機会とします。



スケジュール

- 12:20 受付開始
- 12:50～13:00 開会のあいさつ
- 13:00～13:40 講演①「京都イメージと富士山と国民文化」高木博志
- 13:40～13:45 休憩
- 13:45～14:20 講演②「江戸期における外国人の京都・富士山の感想」
タイモン・スクリーチ
- 14:20～14:55 講演③「富士山の政治史—徳川日本から帝国日本へ—」松島仁
- 14:55～15:05 休憩
- 15:05～15:45 パネルディスカッション「世界遺産—京都と富士山を再考する」
問題提起・コーディネーター：植田彩芳子
パネリスト：高木博志／タイモン・スクリーチ／松島仁
- 15:45～15:50 閉会のあいさつ
- 15:50 閉会



パネリスト・コーディネーター



たかぎ ひろし
高木 博志
京都大学名誉教授



タイモン・スクリーチ
国際日本文化
研究センター教授



まつしま じん
松島 仁
静岡県富士山世界
遺産センター教授



うえだ さよこ
植田 彩芳子
立命館大学教授

